

研究計画書

ゼミ名	青木ゼミⅡ	チーム名	モデル S
タイトル	究極のエコカーは何？		
テーマ群	d)国際経済・ e)産業・企業		
メンバー	有田晃輔・浮邊直輝・小関 登・芝好 凌・下田侑資・鈴木秀明・堤総一郎・堀田赳史・柳田翔太		
研究計画内容	<p>私たちの生きる現代では、化石燃料の消費を主因とする地球温暖化が進行し、今後もその影響が深刻化していくことが予想されます。そのため、世界各国は課題解決に貢献することが求められており、日本も例外ではありません。ところが不幸なことに、福島原発事故後の日本のエネルギー・環境政策の不透明性のもとで、2020年に始まる新しい地球温暖化防止に向けた国際枠組みへの日本の積極的な関与に、暗雲が漂い始めています。</p> <p>しかし、日本には少し光明が開けていることをご存知ですか？よく知られているように、化石燃料を消費する最大の源泉の一つが自動車です。そして、化石燃料の消費や自動車から排出される排気ガスを抑えるために、自動車メーカー各社は現在いわゆる「エコカー」の開発にしのぎを削っています。幸いなことに、その世界的なフロンティアが日本市場なのです。</p> <p>ではそもそもエコカーとは何でしょうか？それらはどのような仕組みで動く自動車なのでしょうか？また、電気自動車にしろ、今年 12 月にトヨタが世界に先駆けて発売する燃料電池車にしろ、ガソリンを直接消費しないので一見したところ「エコ」のように見えますが、電気や水素を作るためには化石燃料が必要です。ですから燃料消費レベルでエコであっても、エネルギー生産・輸送を含めたトータルではエコとは限りません。では、エコカーは本当に地球環境にやさしいエコな自動車なのでしょうか？また、世界の自動車メーカーがしのぎを削っていく中で日本は「地球にやさしい自動車大国」というフロンティア国家の地位を確立していけるのでしょうか？このような問題意識の下で、①エコカーの仕組みとその展開、②究極のエコカーは何か？～well to wheel 分析～、③エコカー大国の構築に向けた政策、などについて調査・分析を行う予定です。</p> <p>ちなみに、わたしたちのチーム名“モデル S”は、アメリカの起業家イーロン・マスク氏が率いるテスラ・モーターズ社が開発・発売している電気自動車の名前からとったものです。</p>		